

9

『心の時計』再始動へ

～岩手県立大学宮古短期大学部学生赤十字奉仕団 活動紹介～

岩手県立大学宮古短期大学部 教授 田中宣廣
学生団体 岩手県立大学宮古短期大学部学生赤十字奉仕団

該当する
原則

原則 9：持続可能性を推進する

1. 活動の概要

「岩手県立大学宮古短期大学部学生赤十字奉仕団」(以下「当団」という。)は、日本赤十字社の青年赤十字の一環として赤十字運動の根幹であるボランティア活動を機会あるごとに実施し、学生の地域に対する理解に努めている。

当団では、①地域に貢献、②日本赤十字社諸活動補助、③自らの自主性向上、④地域住民と深く交流の4点を基本方針・目標にしている。また、地域の方々のご指導を戴きつつ協働していることが当団の特徴である。

2. 活動開始、地域活動

当団は、設立を提案した学生数名と後に顧問となる教員により2008年秋に活動開始し、2009年に大学の公認団体となった。学生は2021年で13代目、会員学生数は40～70名程度である。

活動開始当初から宮古市社会福祉協議会の指導を受けた。このことが、東日本大震災津波の発災時の支援活動を円滑に実施する要因となるとともに、外部団体と協働することの重要性を認識する端緒ともなった。

このほか、鍋料理を囲む懇談会などの活動を通じて本学周辺の地域住民の方々との関係も構築した。この関係性は東日本大震災津波発災以降の活動に大いに寄与することとなった。

他の継続的活動は、日本赤十字社献血、陸中宮古青年会議所主催行事及び陸中宮古青年会議所主催行事及びNPO法人みやっこベース事業との協働、高齢者福祉施設の行事支援、宮古市内各種団体事業への参加、台風被害など災害時の復旧支援などである。



日本赤十字 献血運動

3. 東日本大震災津波に関する支援活動

2011年3月11日の発災時は、活動の主体は3代目の学生であった。宮古市の人的被害は、死亡526名、行方不明114名(市人口の0.9%)と甚大であった(平成23年度財団法人地方自治情報センター報告)。当団は、岩手県における沿岸部唯一の高等教育機関として、被災者援助のため立ち上がり、当時宮古市に居住していた学生を中心に、支援活動を開始した。実家に帰省中の学生が宮古市に戻るまで、支援物資の仕分け作業を中心に活動した。学生が宮古市に揃った時点で、市内各地で被災家屋や道路側溝の津波泥清掃作業が始まり、当団もこれに参加した。

さらに、大規模仮設住宅が本学のキャンパス隣地に来ると、「2.活動開始、地域活動」で培った鍋料理を囲む懇談会、東京の創作パン研究家とともに手作りパン試食会など多様な支援を実施した。

震災後、徐々に震災前の活動を復活させた。また、被災児童支援などで全国から宮古市に集った他大学学生との交流や連携も進めた。そのなかで、地域行事の開催などを通じて、被災時で心の時の流れが止まった人達が自らの力で以前のような生活に戻る努力を支援した。この活動は、日本赤十字社国際部の報告書に掲載された。



日本赤十字 宮古市の復興イベント

4. 今後の活動

震災後10年が経過し、ハード面での復興は建物や防潮堤また道路など概ね完成しつつあり、「心の時計」も再始動しつつあるが、「心の復興」は始まったところである。私たちはその支援を継続する予定である。